

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/2F・3F)**

事業所番号	2775004902		
法人名	社会福祉法人 美正福祉会		
事業所名	グループホーム サニーハウス		
所在地	東大阪市御厨南2-6-11		
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果市町村受理日	令和6年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年1月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な雰囲気の中で家族の様に寄り添い、おひとりお一人に添った介護をしております。理念の「笑顔 寄り添う 信頼」に基づき利用者さんが少しでも多く笑顔で過ごして頂ける様に職員も笑顔が多い職場を目指し、利用者さんや家族様から信頼を得て安心して生活が出来る様に努めております。「看取り」を希望される家族様が殆どですので、利用者さんや家族様の意思や想いを尊重し残された時間が少しでも穏やかに過ごして頂ける様に日々職員間で情報を共有し最期の時を迎えて頂ける様にしたいと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

母体の八戸ノ里病院は長年に渡り地域に密着した総合病院である。高齢化に伴い地域に貢献したいとの想いで、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、デイサービスセンターと福祉事業を立ち上げ、平成17年に当事業所を立ち上げて19年が経過しようとしている。日々の業務の中で、利用者には同じ目線をもってケアにあたり、職員の研鑽に力を注ぎ、外部研修にも積極的に参加を促してスキルアップを図り、質の高いサービスを目指している。現施設長は看護師であり、計画作成担当も兼務している。このため医師と看護師が24時間ONコール体制のもとに今期は4名の看取りを行い、家族からは感謝されている。職員は永年勤続者が多く、職員面談でも働きやすいとの意見が聞かれた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

**【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】**

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を詰所に掲げ実践出来る様に努めている。	法人理念の他、管理者を中心に職員から意見を集めて事業所の独自理念「笑顔・寄り添う・信頼」を考えて各フロアのスタッフルームに掲げている。1月に赴任した新管理者は、更に毎月の、月目標を考えて、朝・夕の申し送り時に立ち返りを行ない実践に繋げようとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに住まれている民生委員の方に運営推進会議に出席して頂き地域の情報を頂いたり盆踊りに参加したりしている。	自治会に加入しているが、自治会長が高齢のため地域の情報は民生委員から入手している。夏の盆踊りには車椅子の利用者も含めて約10名が参加し、地域との交流を図っている。今後は中断しているボランティアの方に来ていただき交流の再会を図ろうと企画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受ける事があるのでその都度アドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議では施設での暮らしを報告し困難事例が有る時は相談し地域包括の方を始め参加者からアドバイスをもらいサービス向上に活かしている。	会議は偶数月に開催され、出席者には地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、家族(2名)、法人内特別養護老人ホーム職員、施設長らが出席のもとに、ヒヤリハット・事故報告、行事報告等現況報告が為されている。出席者からの活発な意見は記録に残して関係者にも郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や不明点があれば市の高齢者施設課に相談し協力を得る様にしている。	市の高齢者施設課・福祉事務所(公的扶助者2名)には書類の申請、困難事例等の説明で訪問、電話してアドバイスを受けている。市が主催の研修会には安全面、リスク管理、接遇マナー等に出席(現状リモート参加)して伝達研修を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故を防ぐ為やむおえず身体拘束を行う場合があるがその時は家族さんに同意を得て毎月身体拘束会議を行い解消できるように検討して行く。	法人が作成している指針を基に、身体拘束研修を年2回以上実施している。身体拘束適正化委員会の会議では、最近まで実施していたベッド柵設置の利用者の状況報告が為されている。スピーチロック等言葉の変換の仕方を事例として、話し合いを行い、議事録に残そうと検討中である。玄関、ユニット間は施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内で高齢者虐待防止についての研修を行い意識づけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるのをごちからは本人様の状況を都度報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な時間を取り説明し疑問点が無いか確認し理解、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族さんに意見を頂いたり電話での報告の中で要望を聞いたりしている。	面会は予約制で行われており、家族の要請による限られた家族のみの面会となっている。事業所便りは毎月担当者から日頃のエピソードや行事時の写真を添えて郵送され、電話や面会時に聞いた家族の意見は職員会議の中で話し合いをして運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で職員からの意見を聞き改善出来る事や提案により支援の質を高められるようにしている。	毎月開催される職員会議の中で、利用者一人ひとりの現状や問題点を話し合い改善に繋げている。職員は食事、行事、居室、買い物、防災等担当があり、各自が工夫しながら日々の業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の良い所を評価しやりがいを持ってもらえるようにしている。残業も無く働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら個々がスキルアップ出来る様研修に参加できる機会を設ける様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修会や交流会に参加するよう努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人さんのアセスメントをしっかり行い家族さんの要望に出来るだけ応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き安心して利用者さんを預けていただけるように徐々に信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の優先順位を見極めまずそこから支援出来る様に努めてる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんが出来る事を最大限に引き出し出来る事をしてもらいながら共に生活をしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人さんの為にも家族と共に支えて頂ける様に行事にも参加してもらったり密に連絡を取るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人さんの知人や親戚の方が来られた時は出来るだけ又来て頂ける様に声掛けさせて頂いている。面会の機会も徐々に増やして来て頂きやすい環境に努めている。	以前の職場の人の訪問があり、職員が同行のもとに花見に外出した人、おやつを買いに買い物に行く人、家族が迎へに来て実家に帰る人等、これまでの馴染みの関係が途切れないような支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の性格を見極めて交流できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談事などあれば出来る限りの相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族さん本人さんの思いを把握し希望に添えるように努めている。	これまでの生活歴を知るため、以前のケアマネジャー、家族から情報を集めて基本情報に記載している。好きなこと・嫌いなこと等利用者の様々な情報を把握して申し送りノートに記録して職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんにこれまでの生活環境、暮らし方を情報収集しサービスに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少人数である為個々のペースで過ごして頂ける環境なので体調管理を行い個別ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。	モニタリングやカンファレンスは3か月ごとに行い、介護計画は長期6か月、短期3か月を目安に行なわれている。サービス担当者会議は医師、看護師、家族から、事前に意見を聞き、計画作成担当者、職員(4名)、施設長が出席して、行なわれている。出来上がった計画は電話等で家族に説明を行い同意を得ている。	フェイスシートやアセスメント記録、サービス担当者会議の記録等は個々にファイルが為されている。これらを個人ファイルの中に纏めて入れ込み、職員が利用者個々の各種データを一括して直ぐに把握できるような仕組みを作り、情報の共有の仕方を再検討されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い申し送り等で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数性を活かしその時々柔軟な対応が出来るためサービスに取り組むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議等で地域包括の方から地域の情報を収集し地域とのつながりが出来る様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に家族さんに了承を得て協力病院より月2回の往診があり入院の必要があれば優先的に入院もできる。	法人が運営する提携病院から月2回訪問診療がある。24時間対応してくれるため利用者は全員が提携の医療機関で健康管理を行っている。訪問歯科は週1回あり、口腔ケアと治療が必要な場合は治療を行っている。他科受診は基本的には家族が対応するが、日々の様子を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時はすぐに看護師に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院の為連携も取りやすく出来るだけ利用者さんが早期に退院出来る様に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についての考えをお聞きし必要に応じて看取りに関する指針を説明し「看取り介護についての同意書」を書いてもらっている。	入居契約時に重度化の対応について説明し、看取りの状態になった時には医師から説明を行い同意を得て事業所で看取りを行う。看取りの研修を行い、施設長自らが看護師のため職員は看取りに対する不安はなく積極的に看取りを行っている。前年度は4人の利用者が家族や職員に見守られながら穏やかな最期を迎えることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については職員会議や施設内研修などで定期的に研鑽している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を行い内1回は災害を想定した訓練も行っている。	今年度2回の避難訓練を実施した。令和6年3月までに作成が義務付けられているBCP（事業継続計画）は現在作成中である。職員の緊急連絡網は作成しているが備蓄品の準備や保管場所などを全職員がしっかり把握できていない。	近隣住民との協力体制が民生委員1名だけなのでもう少し協力してもらえよう地域との関係性の構築に努めることが期待される。能登半島の地震のように想定以上の災害はいつ発生するか分からないので、日頃からの準備は必要である。備蓄品は最低1週間分保管することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを心掛けているが、不適切な言葉を掛けている職員が居ればお互い注意できるように努めている。	利用者は基本苗字で呼んでいるが、その人が名前やニックネームで呼んで欲しいと希望があれば家族の了解を得てそのように呼ぶこともある。利用者とは話す時には同じ目線になるように屈んだり、介護を始める時には必ず声を掛けてから行うようにしている。トイレや入浴時もプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来ない利用者さんにはその方の思いや希望がくみ取れるように努めている。出来る方には希望を都度聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の体調や精神面に合わせて日々過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族さんに代わって洋服や下着を購入しその方が好きそうな洋服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクで職員がちらし寿司を作ったりお誕生日会には手作りのケーキを作り喜んでもらっている。外食にも出掛けている。	給食業者から調理されたおかずが配達される。盛り付けは職員が行い、テーブルを拭いたり食器洗いは利用者と一緒にやる。年に何度か商業施設のフードコートや回転ずし、中華料理店で外食をしたり、食事レクで利用者の好きなちらし寿司やお好み焼き、ケーキ、パフェを作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個別の食事形態で提供し、水分摂取は1日の目標量を確保できるように声掛けし水分摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い個々のケアには歯科衛生士より助言を貰っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ対応の方にも出来るだけトイレ誘導を行いトイレで排泄してもらえるようにしている。	寝たきりの利用者を除き、適宜声掛けしてトイレで排泄ができるように支援している。留置カテーテルの人でオムツ内に排便していた人がトイレ誘導を行うことでトイレで排便できるようになったという事例がある。夜間もできるだけトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分摂取をしてもらえるようにこまめに水分を提供しヨーグルトなども食べて頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回入浴して頂きお一人ずつゆっくり入って頂ける時間を設けている。	1日に2人ずつ入浴し利用者は週2~3回入浴している。「風呂に入りましょう」と声を掛けると拒否をする人が多いため職員は声掛けの仕方を考えながら風呂場に誘導している。浴槽が深いため一人では浴槽に浸かれない人も2人で介助し、全員浴槽に浸かることができる。入浴後はボディークリームを塗り保湿を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんはいつでも自分のペースで休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導のもと薬剤師との連携をとり疑問点などは質問し利用者さんの支援に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物を畳んでもらったり、気分転換には気候の良い頃にはお散歩に行ってもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族さんも同行してもらい外食に出掛けたりしている。毎年地域の盆踊りにも参加している。	夏の暑さや冬の寒い時期は控えているが、気候の良い時には散歩や近くの神社に参拝に出かけている。買い物に行きたいと言う利用者と一緒におやつを買いに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設が預り金として管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんから要望があれば電話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはソファがありそこでくつろがれている事もある。室温の温度調整は随時行い快適に過ごされるようにしている。出来るだけ清潔感があるように努めている。	廊下の奥にソファが置いてあり、食事の後にそこに座って寛ぐ利用者がある。毎日の掃除は職員で行うが、3ヶ月に1回、清掃業者が掃除を行い床は綺麗に磨かれている。窓からは明るい日差しが入り利用者が穏やかに居心地よく過ごせるような空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ気の合う方同士で同じテーブルで座ってもらったり、お一人でゆっくりソファに座られたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染のある家具や持ち物を持って来てもらうようにしたり利用者さんが落ち着く環境づくりに努めている。	各居室にはベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が設置されており、カーテン、布団は各自でリースしている。テレビやタンス、仏壇、家族の写真を飾りそれぞれ思い思いの居室になっている。入口には表札があり、ドアには利用者が間違えて部屋に入らないように目印の飾りが付けてある。居室も3ヶ月に1回業者が清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんが生活する上で解りやすくお部屋に名前を書いたりトイレも解りやすく工夫している。		